科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
精神看護援助論Ⅰ	NSP22__010	必修	2	2	後期

担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー
森川　三郎	417	s.morikawa	水曜日 12:10～13:00

授業の目的・概要	精神の疾病・治療論に基づいて精神の機能障害が及ぼす生活及び身体への影響について、看護の視点から理解することを目的とする。特に、ストレングスモデル及び地域社会における精神医療を踏まえて理解を促す。主に指定テキストの5章･6章･12章に該当する範囲を教授する。具体的には、統合失調症については急性期･寛解過程の各段階及び慢性期、気分(感情)障害については急性期･回復期の看護及び治療を理解する。さらに、神経症･心身症･症状精神病及び身体合併症等の身体に関係する疾患、高齢期の精神疾患、アディクション関連疾患、発達障害等についての治療と看護を理解する。
授業形式・方法	☑対面授業　☐遠隔授業(双方向型)　☐遠隔授業(自主学習) ☑講義　☐演習　☐実習　☐実技 ☐PBL　☐反転授業　☐ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ　☐ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　☐ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　☐実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ　☐その他　（　）
学習上の助言	学習効果をあげるためには、各回の学習内容の客観的な理解の確認、及び主題に関する主観的省察が必要なので、「理解の内容」及び各回の主題に関する自らの「学びの内容」について、リアクションペーパーによって言語化(文字化)することが重要である。
教科書	・系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護の基礎　第 6 版 /著:武井麻子 /医学書院 /2021 ・系統看護学講座専門分野Ⅱ精神看護の展開　第 6 版 /著:武井麻子 /医学書院 /2021 ［概論･援助論Ⅰ･援助論Ⅱ･実習と合わせて2冊指定］
参考書	･リカバリー･退院支援･地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 /著:萱間真美 /医学書院 /2017 ･オープンダイアローグ 私たちはこうしている /著:森川すいめい /医学書院 /2021
外部教材	特になし

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	神経伝達物質と精神機能(知覚･思考･感情･意欲等)の関係が理解でき、説明できる。	NS(1)～(5)
②	統合失調症･気分感情障害等の主要な精神疾患が理解でき、看護の基本が説明できる。	NS(1)～(5)
③	アルコール依存症等のアディクション関連疾患が理解でき、看護の基本が説明できる。	NS(1)～(5)
④	心と体の関係を理解し、神経症･心身症･症候精神病等の看護の基本が説明できる。	NS(1)～(5)
⑤	生物学的･心理社会学的な発達を理解し、発達障害に関する看護の基本が説明できる。	NS(1)～(5)
⑥	身体的治療(薬物療法･電気痙攣療法)が理解でき、看護の関わり方が説明できる。	NS(1)～(5)

授　業　計　画

回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	精神現象について、「神経伝達物質の働きとしての脳」と「対人交流の成果としての心」との関係を学ぶ。30 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書でドーパミン及び知覚･思考の異常について次回の予習をする。	4
2	神経伝達物質と「知覚･思考」の関係の理解を基礎に､「知覚･思考」の異常についての看護を学ぶ。15 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書でセロトニン及び感情の異常について次回の予習をする。	4
3	神経伝達物質と「感情」の関係の理解を基礎に、「感情」の異常についての看護を学ぶ。10 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書でノルアドレナリン及び意欲の異常について次回の予習をする。	4
4	神経伝達物質と「意欲」の関係の理解を基礎に、「意欲」の異常についての看護を学ぶ。10 分の連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で精神疾患に共通の非特異症状等について次回の予習をする。	4
5	上記 2.3.4 以外の非特異症状(睡眠障害等)、及びせん妄や認知症状等の脳器質性の症状の看護を学ぶ。26 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で統合失調症の症状等について次回の予習をする。	4
6	統合失調症の疫学･要因･状態像･特異症状･治療等を包括的に理解する。15 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で統合失調症の治療･回復プロセスについて次回の予習をする。	4
7	統合失調症の寛解過程を理解し、各期(急性期･寛解前期･寛解後期･慢性期)に応じた看護の関わり方を学ぶ。25 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で気分感情障害の症状や経過･治療について次回の予習をする。	4
8	気分(感情)障害を包括的に理解し、病態(躁状態･うつ状態)に応じた看護の関わり方を学ぶ。10 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で神経症性障害･ストレス関連障害について次回の予習をする。	4
9	神経症(不安障害群･強迫性障害･ストレス関連障害･解離性障害･身体表現性障害)を理解し、看護の関わり方を学ぶ。	講義	授業資料を読み返す。教科書で精神作用物質使用による障害について次回の予習をする。	4

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/精神看護学】

10	アルコール依存症･薬物依存などのアディクション関連疾患及び摂食障害を理解し、看護の関わりを学ぶ。9 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で心身症･症状精神病･身体合併症について次回の予習をする。	4
11	心身症･症状精神病･精神科身体合併症を理解し、看護の関わり方と身体的ケアについて学ぶ。8 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で発達課題及び発達障害について次回の予習をする。	4
12	発達及び発達課題について包括的に理解して、発達障害全般についての関わり方を学ぶ。17 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。教科書で向精神薬等の精神科での治療について次回の予習をする。	4
13	精神科における身体的治療(向精神薬による薬物療法及び副作用)を理解し、看護の役割を学ぶ。	講義	授業資料を読み返す。教科書で電気痙攣療法等について次回の予習をする。	4
14	精神科における身体的療法(抗精神病薬以外の向精神薬及び電気痙攣療法他)を理解し、看護の役割を学ぶ。10 分の関連映像を視聴する。	講義	授業資料を読み返す。次回の授業資料(検査･観察･アセスメント)について予習をする。	4
15	精神科看護に関連する検査・アセスメントツール・観察について学び、15 回のまとめを行なう。28 分の関連映像を視聴する。	講義	15 回までの授業資料を振り返り、精神看護についての学習を復習する。	4
試	定期試験 達成度評価･評価のポイントを参照			

達成度評価

		試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
総合評価割合（%）		100	0	0	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	80	0	0	0	0	80
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0
	問題を発見・解決する力	10	0	0	0	0	10

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	✓	授業終了後に定期試験を実施して評価する。試験内容は、授業全般を通した精神看護に関する基本的な知識の理解のために､択一問題及び正誤問題を出題する。また代表的疾患である統合失調症の看護に関する事例問題を出題する。総合的な理解度の確認のためにテーマに関する記述問題を出題する。	試験採点後に、模範解答と試験結果に基づいた分析結果をメール等で学生に配信する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		

備　考

他担当教員	なし
教員の実務経験	20 年以上の精神科臨床看護に携わった経験を持つ。
実践的授業の内容	授業の中に関連する映像や実際の事例を取り入れ、学生の現実的な理解を促す。実際の臨床現場で行なわれている看護を再現しながら看護方法を教授する。
その他	○大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。 ○授業時間中に生じた疑問・質問は当該授業の進行に関係する場合はその段階で、それ以外は授業終了後か、リアクションペーパーによって行う。また全体に関係する内容については次回の授業開始時に回答する。個別のものはメール等で回答する。 ○今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性がある。 ○本授業は、これに続く精神看護援助論Ⅱに必要となる知識･技術を中心として構成されているので、自分が臨床に立った時をイメージして、積極的に学んで欲しい。